

景況動向指数(Diffusion Index)

(2023年4月～6月)



経営発達支援事業資料

長浜市商工会

調 査 対 象 事 業 所

長浜市商工会 管内100事業所

製 造 業 (2 0 事 業 所)

建 設 業 (2 0 事 業 所)

卸 小 売 業 (2 0 事 業 所)

飲 食 宿 泊 業 (2 0 事 業 所)

サ ー ビ ス 業 (2 0 事 業 所)

* 調査期間 2023年4月～6月

この資料は、経営発達支援事業の地域の動向調査に関するこの目的で実施した資料です。

* D I とは？

本報告書の中で%以外に用いているD I 指数とは、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略です。

各調査項目について増加（上昇、好転、長期化）企業割合から減少（低下。悪化、短期化）企業割合を差し引いた値を示します。

D I が+（プラス）なら強気（楽観）、-（マイナス）なら弱気（悲観）を表します。

例えば売上高で増加企業 50%、不変企業 30%、減少企業 20%の場合、

D I 指数・・・ $50\% - 20\% = 30$ となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表しています。

コメント

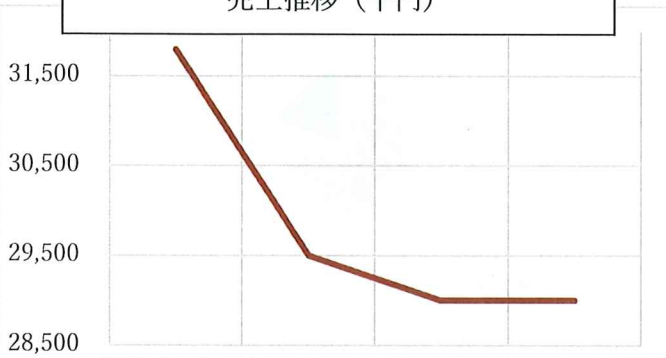
製造業の業績判断にかかるDIは、回復の傾向があるなかで、原材料価格上昇と人材不足の不安が多く聞かれる状況である。

売上DIは前年同期+5、前期+15と回復の声が徐々に聞かれ、来期見通しは+25と今後の回復を見通している声が増えている。資金繰りDIについては前年同期+5、前期+10来期+5と拮抗する状況が続いている。原材料仕入単価DIの上昇が続き、前年同期、来期見通しとも+45と原価上昇の影響を上げる企業が多数である。従業員増減DIは前年同期+15、来期見通し+5と若干の増員の動きである。

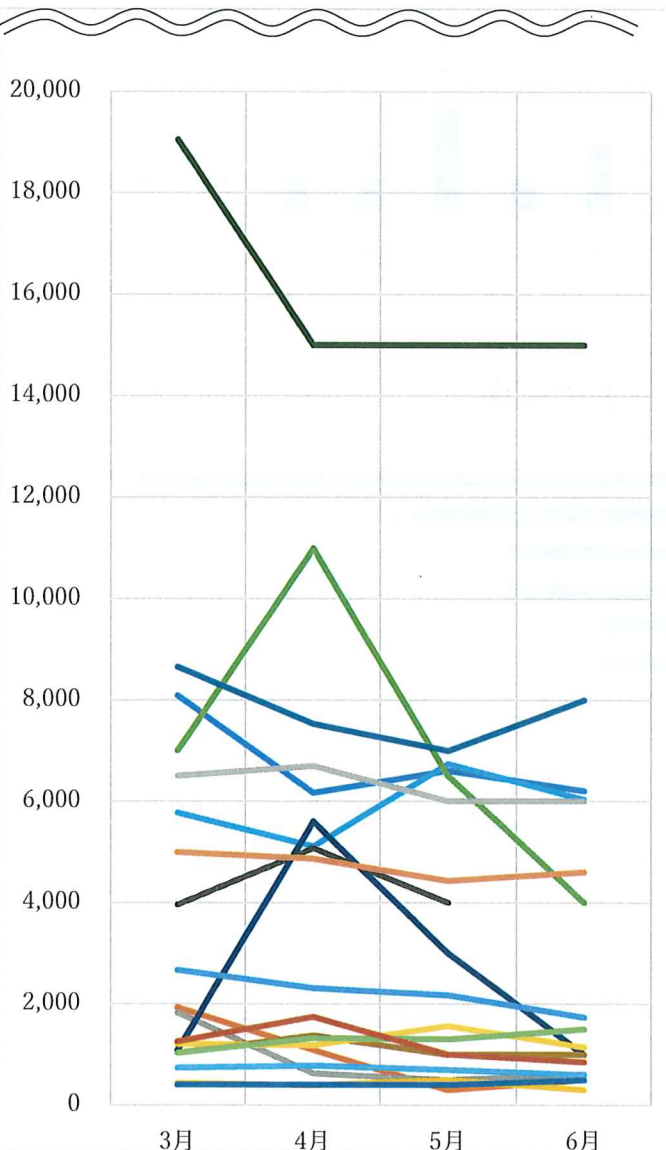
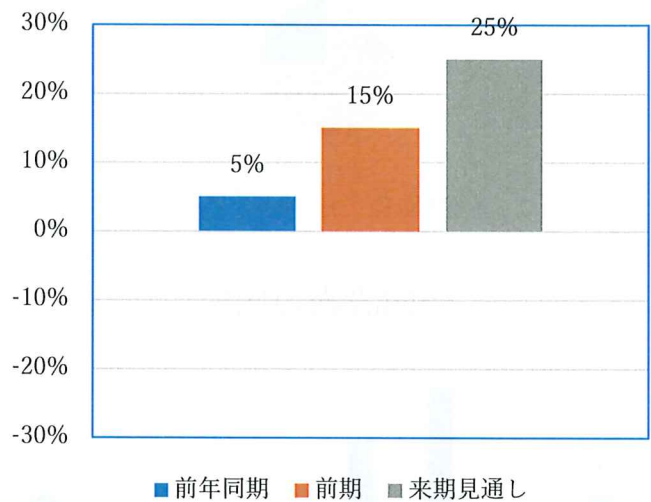
設備投資については今期、来期とも生産設備への投資を行う企業があり、他業種と比較して多い。

個別の声として、新規店舗のオープンに伴い、順調に売上を確保する事ができているが、人材不足により従業員に負担がかかっている。気温が高くなるにつれ、OEM生産が増えており今後も増加する予定である。商品製造数はコロナ前の水準にもどりつつある、現在単価の上昇などマイナス要因もあるが、少しずつ好転しているように感じる。という明るい声も多く聞かれる一方、原材料の上昇が価格に反映できず売り上げが上がらない、人材がないため稼働率が上がらないといった声がある。

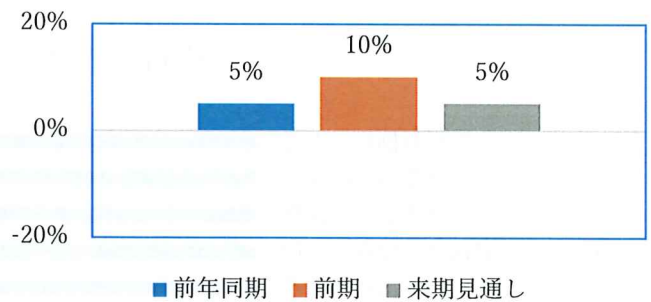
売上推移（千円）



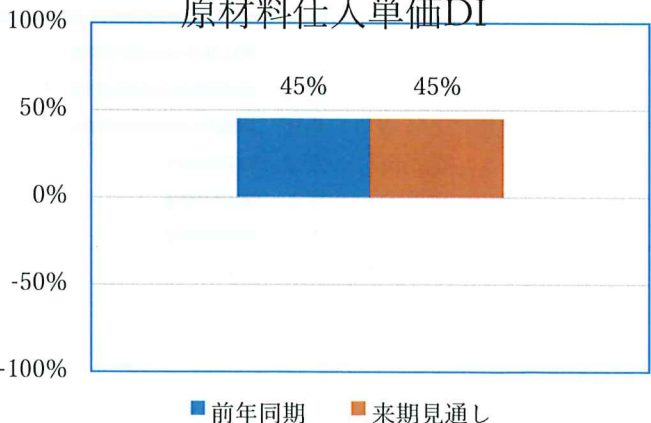
売上DI

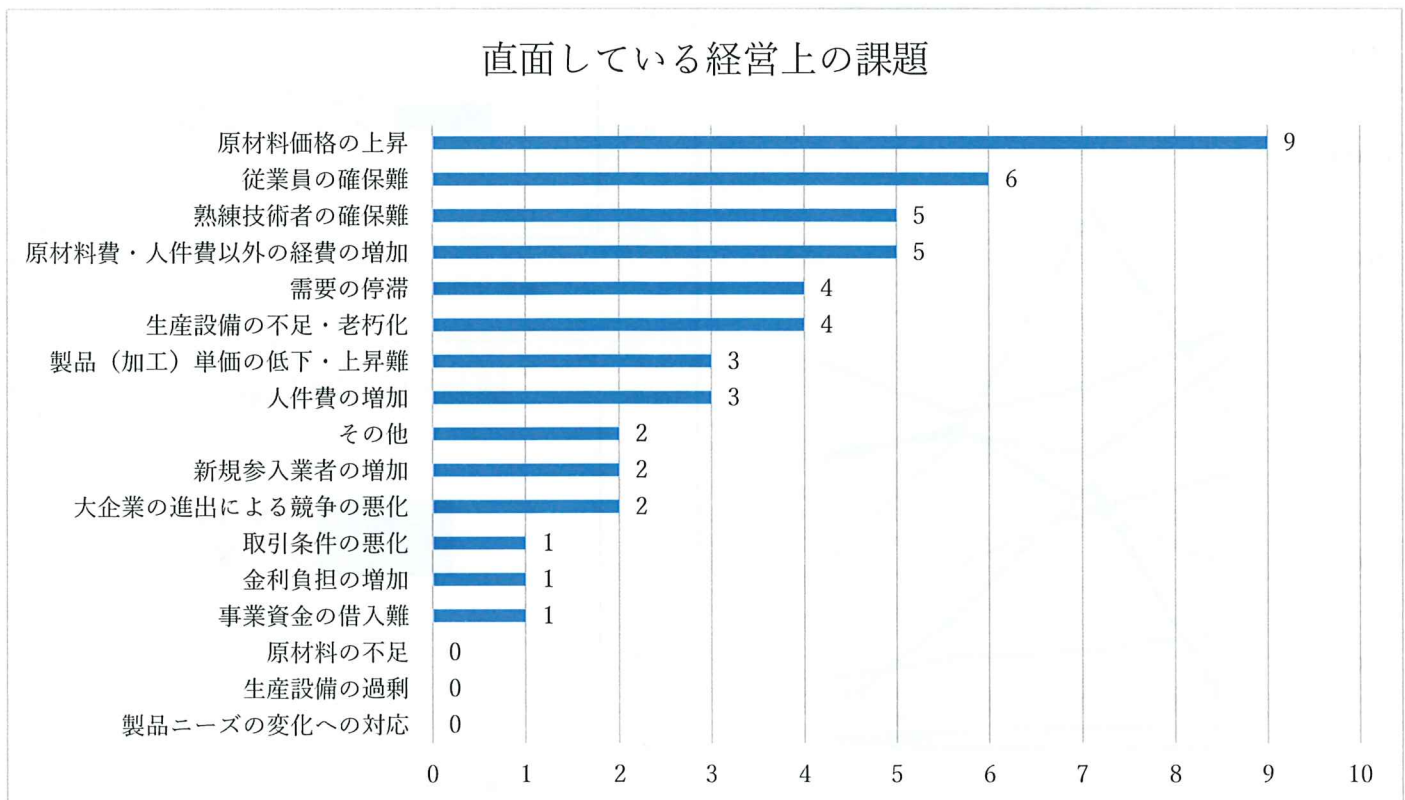
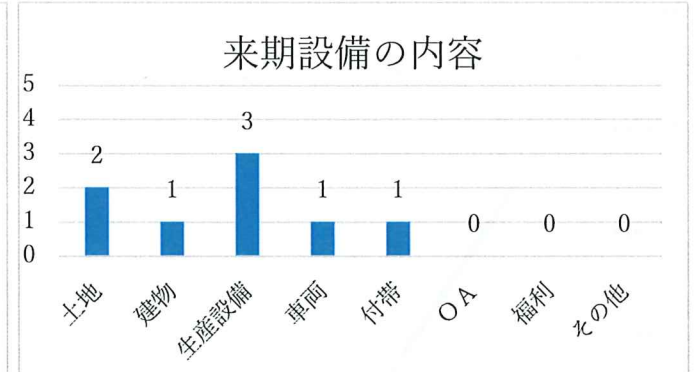
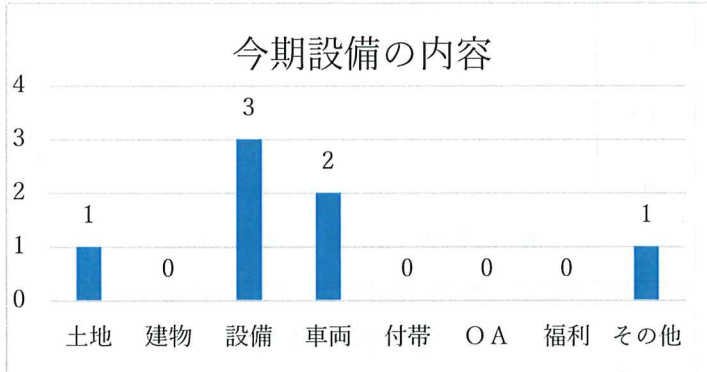
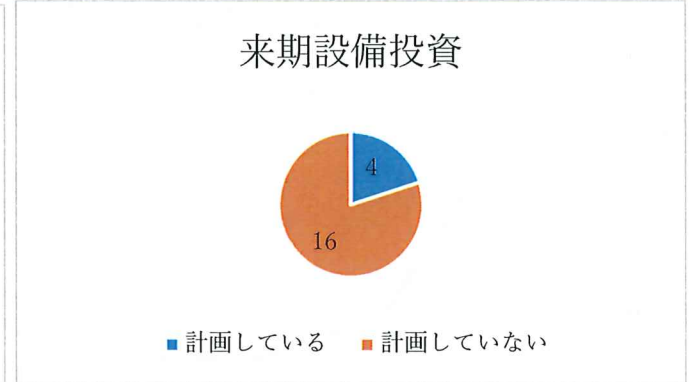
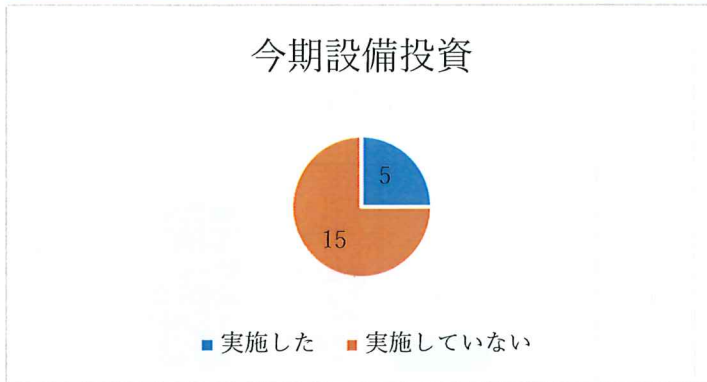
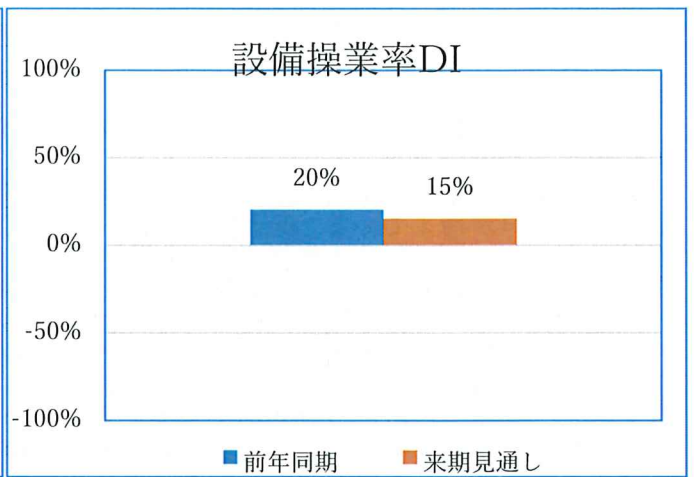
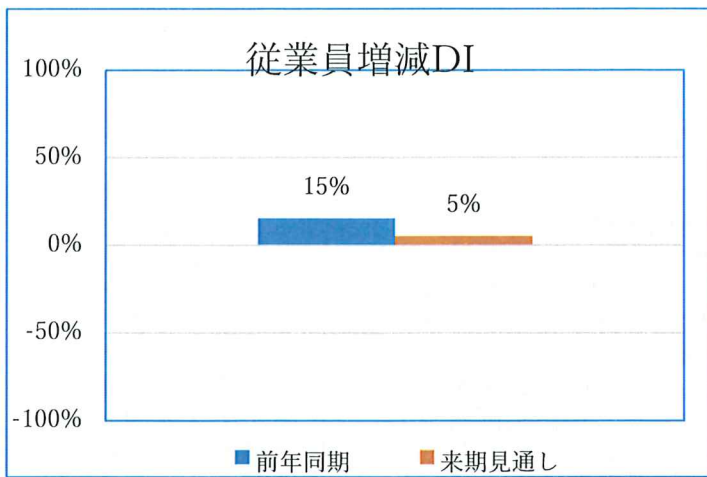


資金繰りDI



原材料仕入単価DI





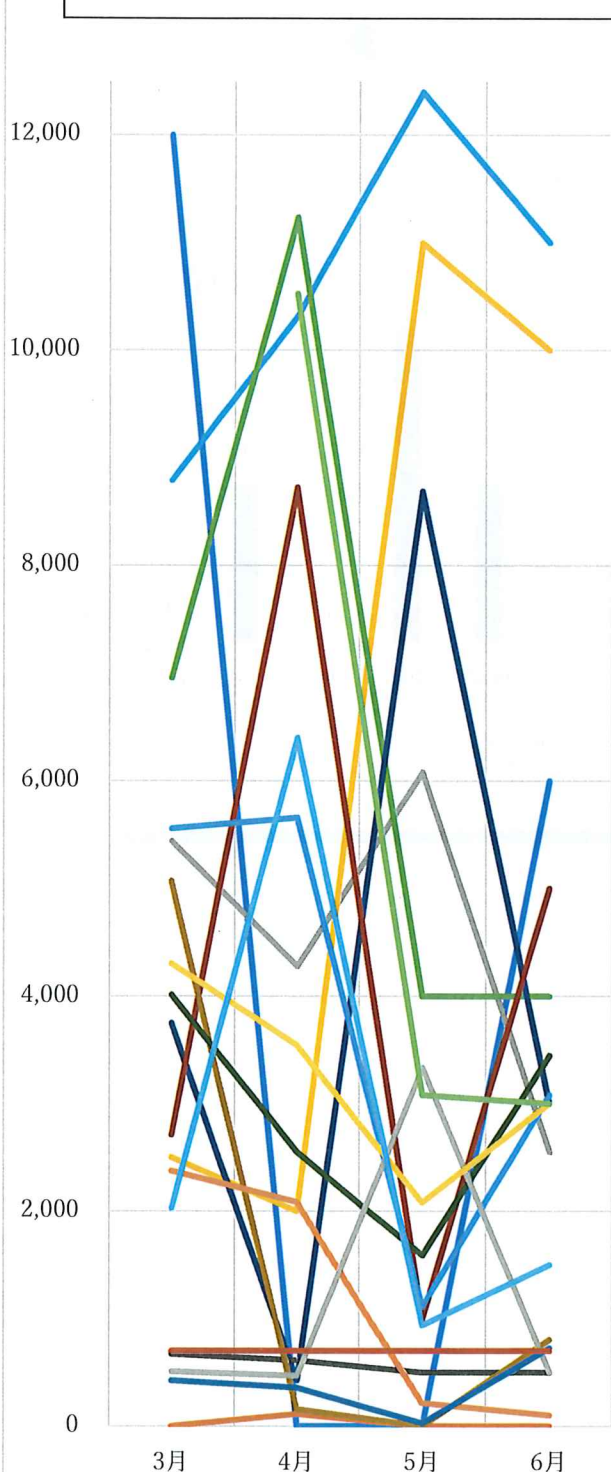
コメント

建設業の業況は、他業種よりも低調な状況であり、原因として原価上昇の影響と人材不足を上げる声が多く、採算面での不安が継続している状況である。資金繰り悪化傾向が続いている。完成工事高DIは前年同期、前期、今後の見通しとも▲10と低下傾向が見受けられる。

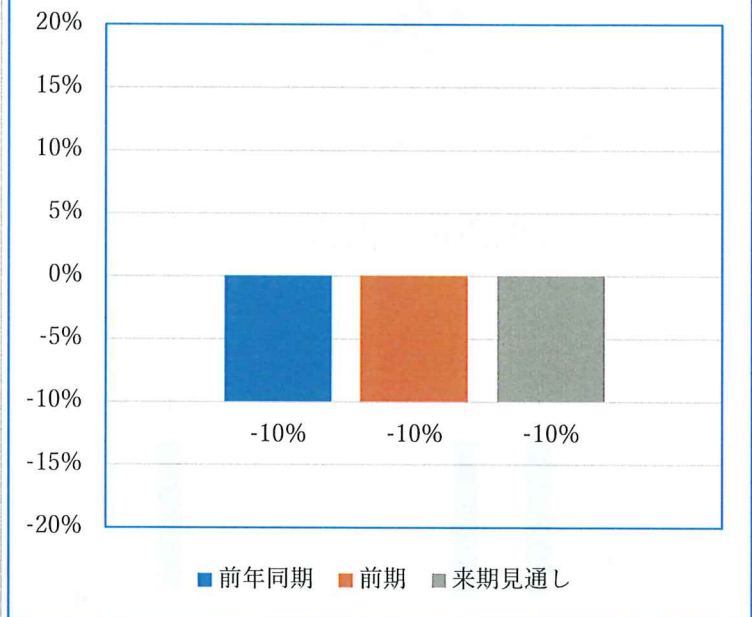
原価上昇を上げる声を引き続き多く、前年同期で値上がり+75と大半の企業において材料の値上がりの影響があると回答している、来期見通しも+50と依然として上昇を懸念する声が多い。採算DIも前年同期▲25、来期は▲40と先行不安の声が多い。資金繰りも前年同期▲5、前期比▲15、見通しは▲25と資金繰りが厳しい状況が続いている。設備投資も低調な状況が続いている。

個別企業の声としては、材料費の高騰で売上は上がるが利益率が悪くなる。地元ではあまり新築物件が少なく遠方に行かないと仕事がないので経費がかかりすぎる。物価上昇に伴い、買い控え（工事の見送り）が目立つように思う。人材不足は今も変わらず。という厳しい声が多い一方、徐々に引き合いは増えてきた、ただ大きな仕事はまだまだである。材料は一部を除いて入るようになり現場もスムーズに進行します。材料や下請けの価格が上昇しているので請負は難しい。といった厳しい中でも明るい兆しも見られる声があった。

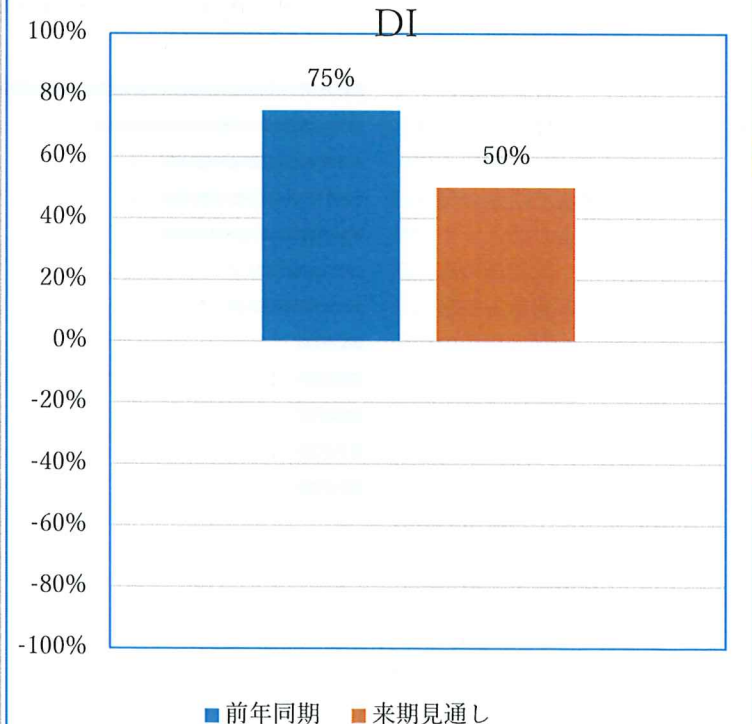
売上推移（千円）

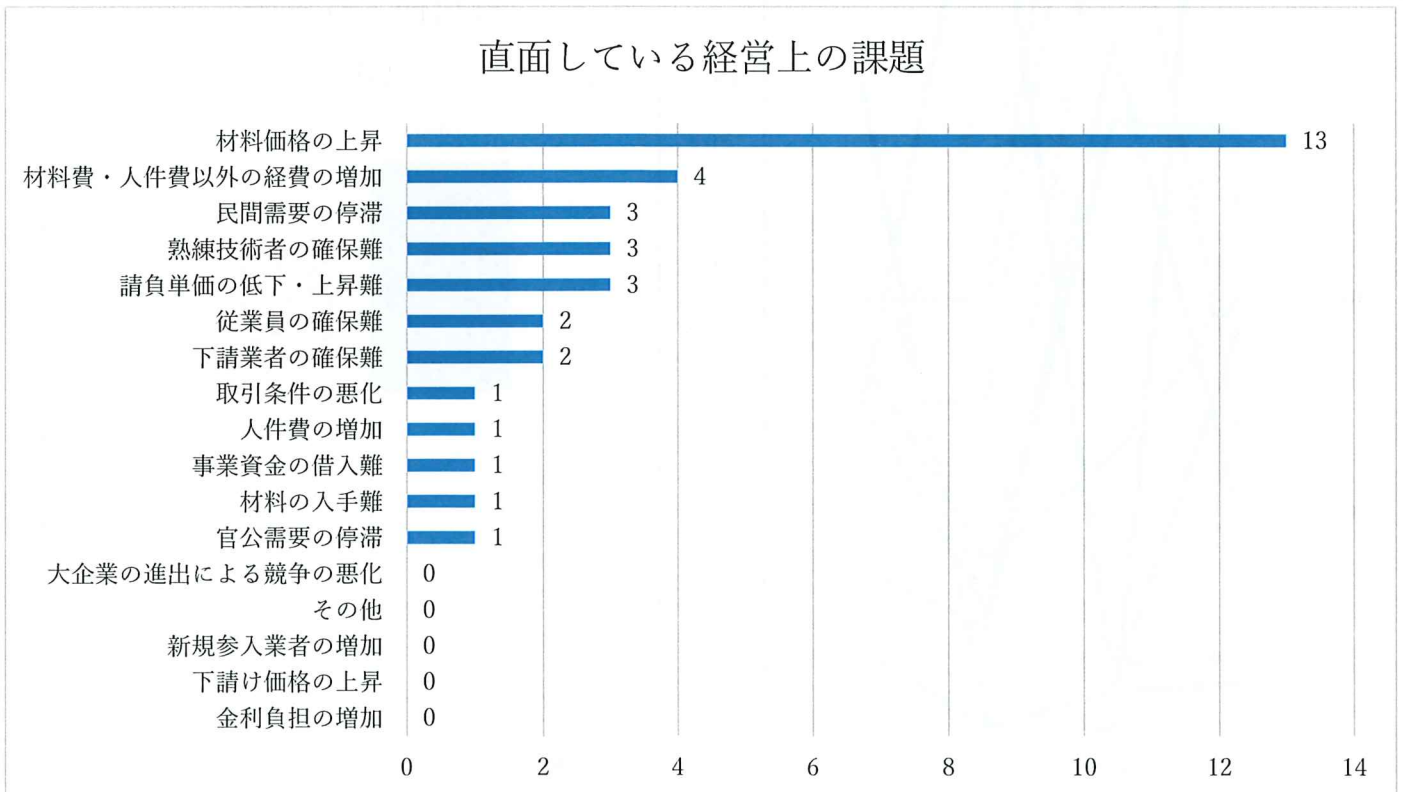
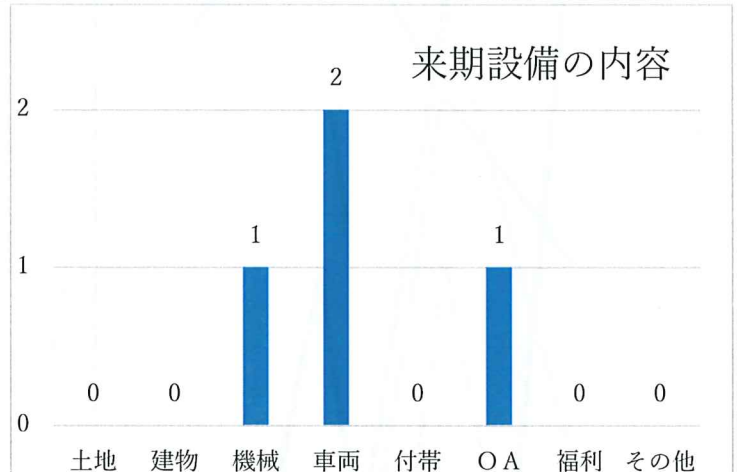
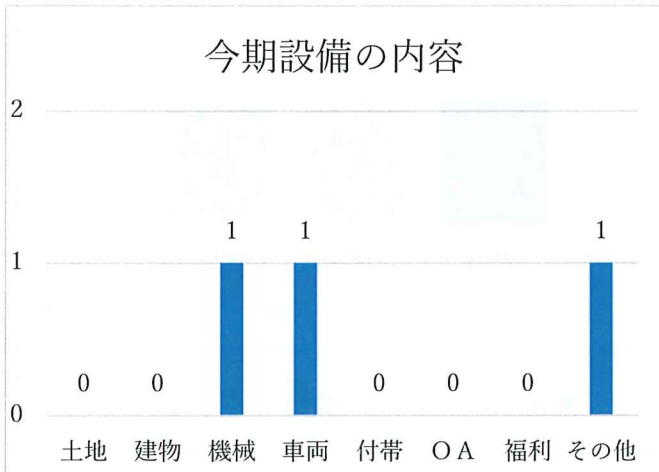
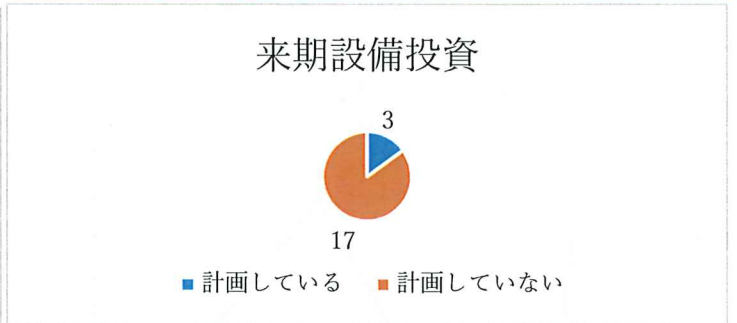
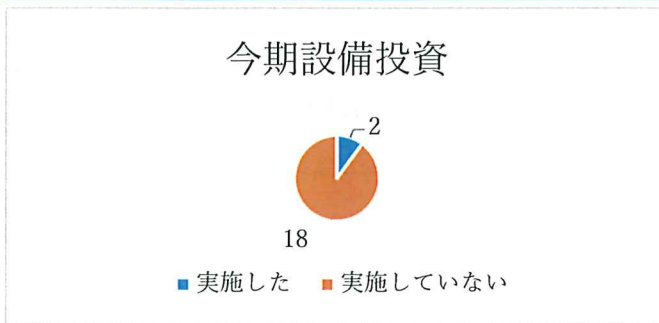
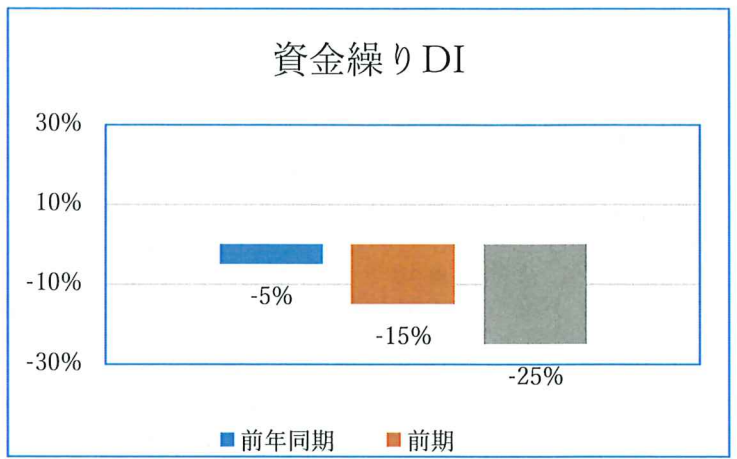
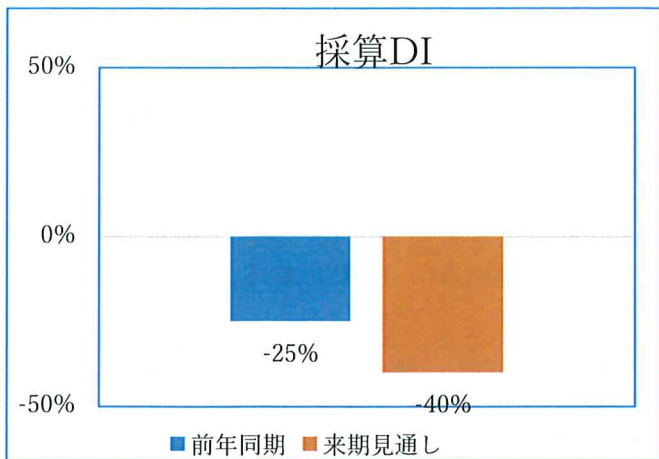


完成工事DI



材料仕入れ単価





卸小売業（2023年4月～6月）DI 値抜粋

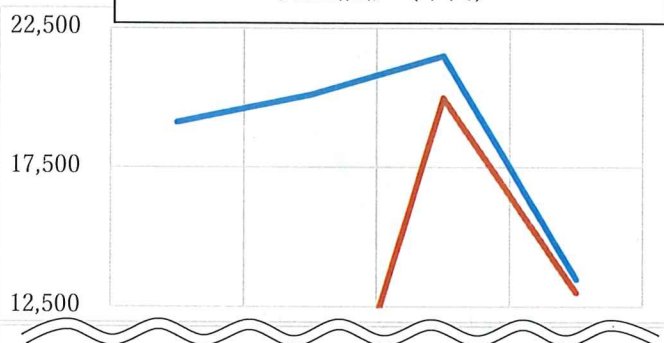
コメント

卸小売業の業況に関するDIは、低調な状況が続き5類への変更以降の好転が見受けられない、仕入価格の上昇で資金繰り面の不安も続く、先行きも不安の声が多い。

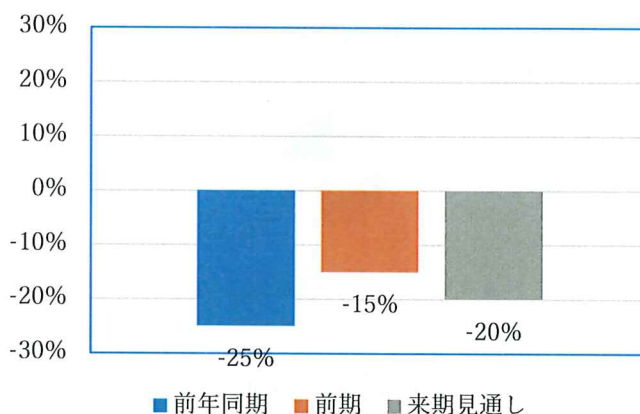
売上DIは前年同期▲25、前期からは▲15と低調であり。来期の見通しも▲20と明るい兆しに乏しい。資金繰りDIについては前年同期、前期▲20、来期も▲15で資金繰り面に不安を抱える声が依然として大きい。客単価の減少傾向は前年同期▲15、前期▲20と低調で、来期見通しも▲25とさらに低下する見通しである。仕入単価上昇の声を上げる声が顕著で前年同期+75、来期見通しも+50と原価上昇が収益を圧迫しており採算DIもマイナスが続く。借入難度の先行きが▲10と不安の声が聞かれ始めている。

個別の声として、仕入れ単価の値上がりが見える、資材の高騰も続く、5月からの価格変更がどのような影響となるか不安、琵琶湖の水質環境変化による漁獲量の変動が不安。という不安の声があるなか、ゴールデンウィークは好調であった、5類になって心持が変わって心なしか人が増えた、皆が外に出たくなってきたため、他地域にも顧客が分散するのではないか、リピーターを確保してファンを増やしたいという声があった。

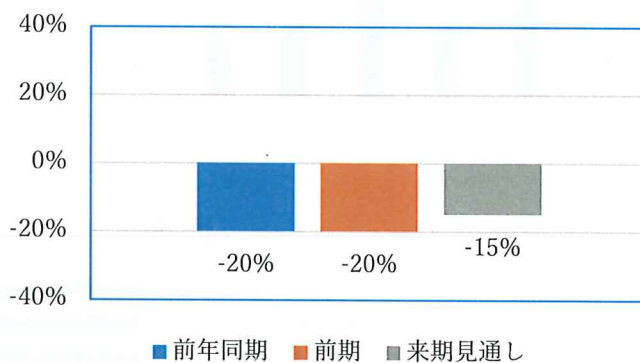
売上推移（千円）



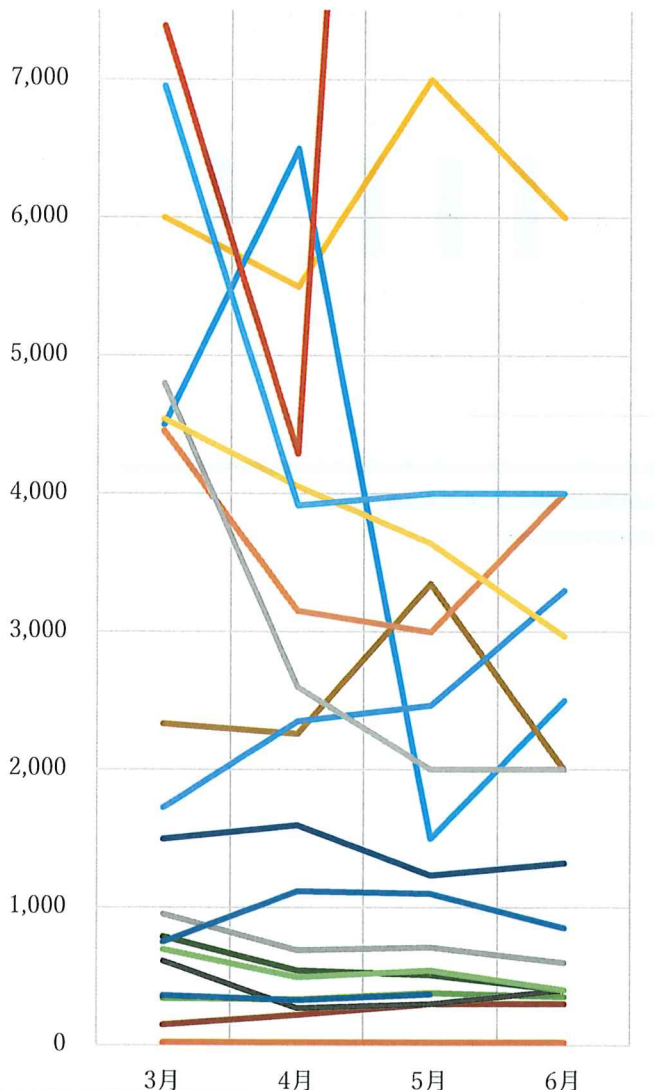
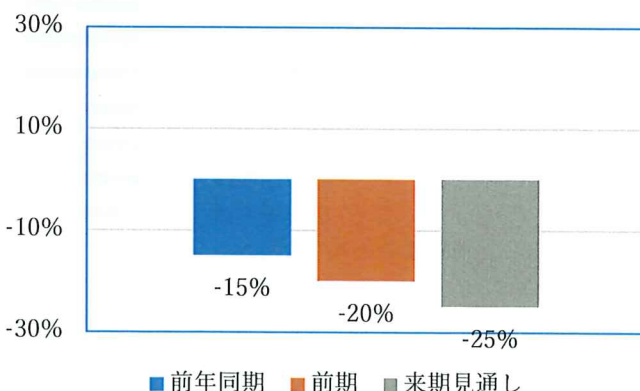
売上DI



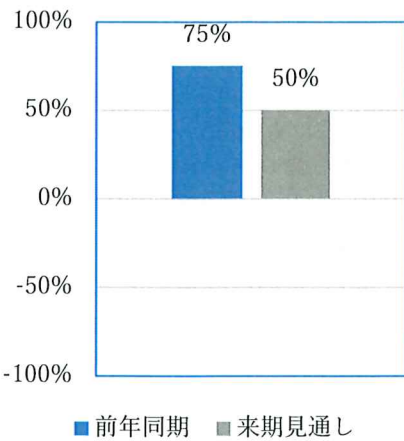
資金繰りDI



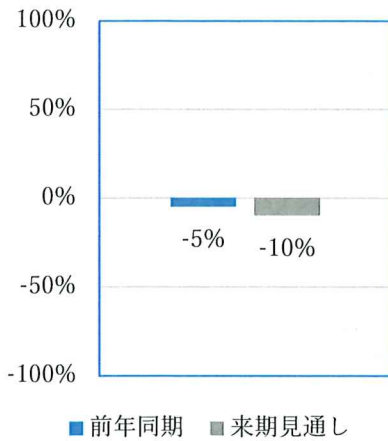
客単価DI



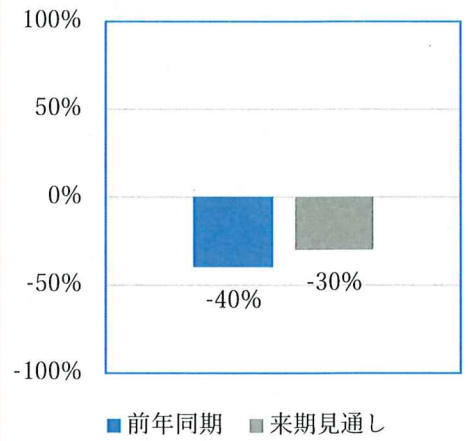
商品仕入単価DI



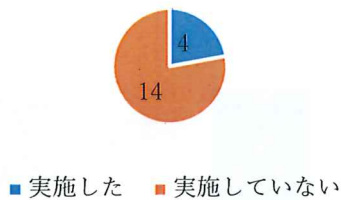
長期借入難度DI



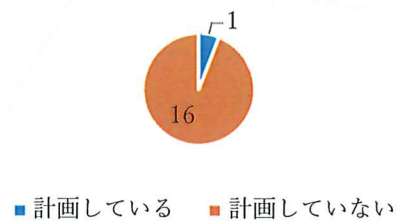
採算（経常利益）DI



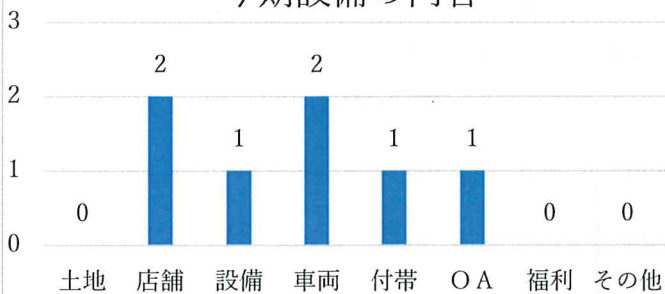
今期設備投資



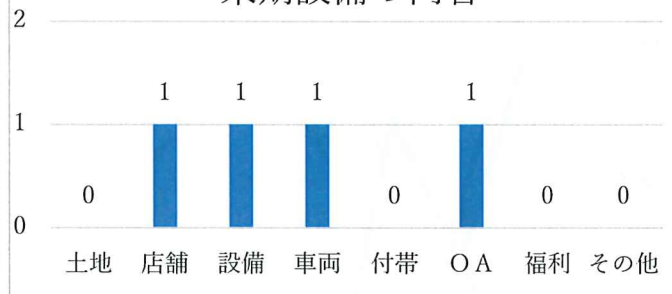
来期設備投資



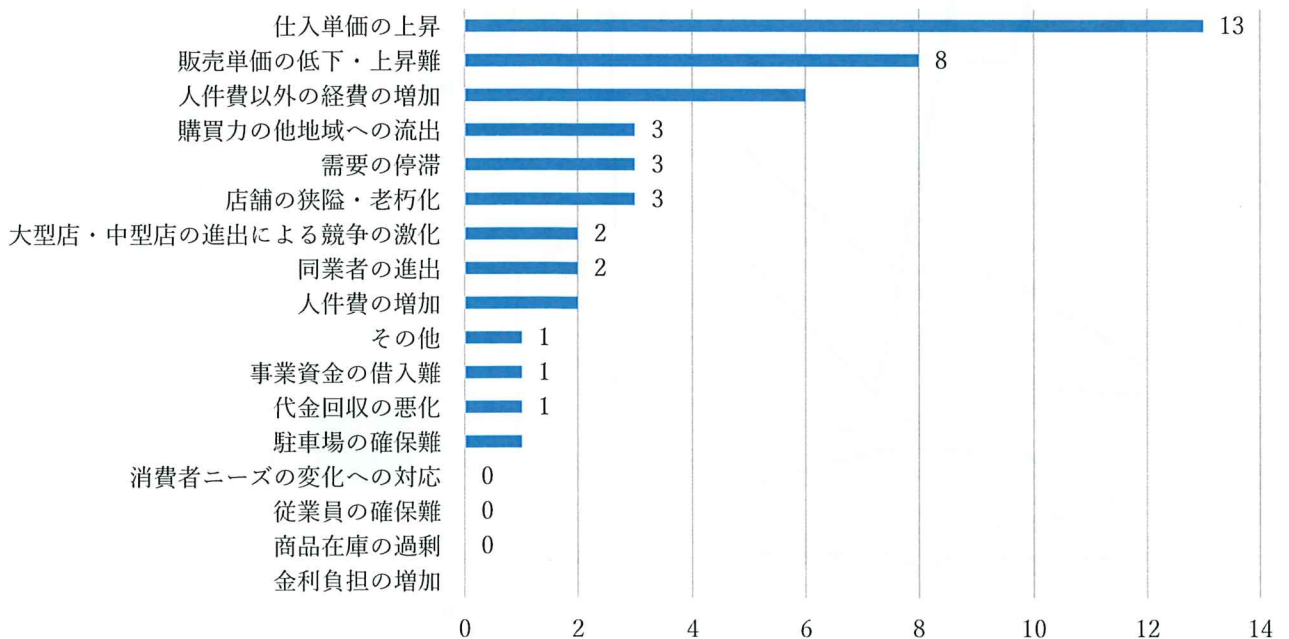
今期設備の内容



来期設備の内容



直面している経営上の課題

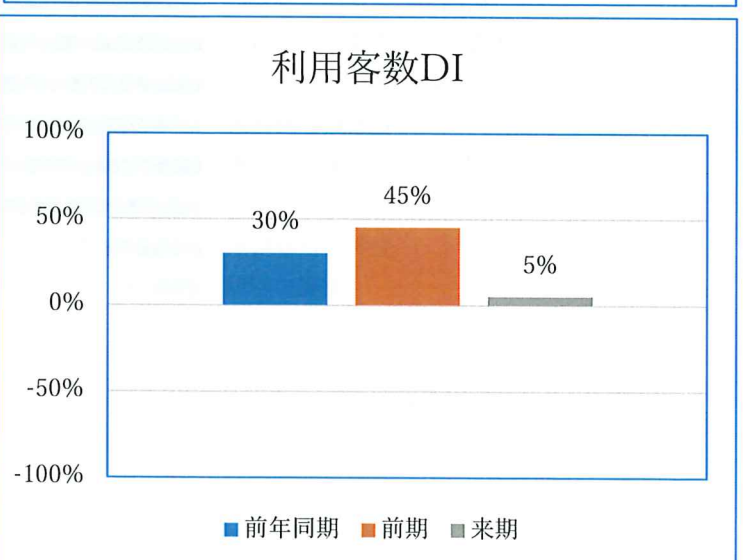
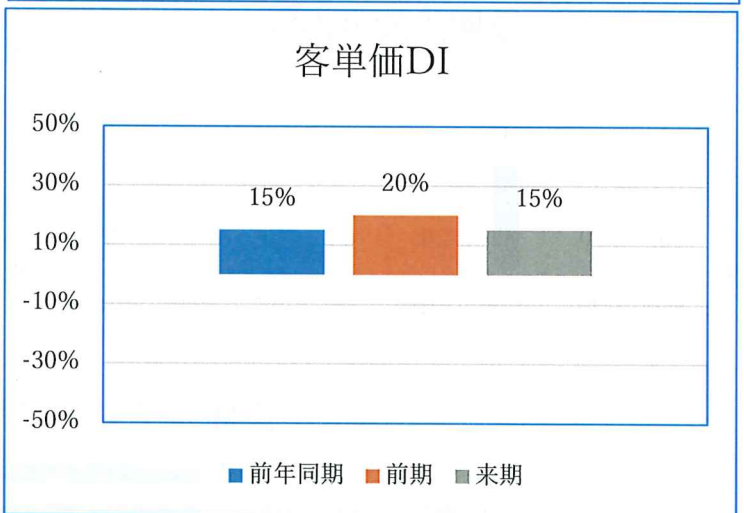
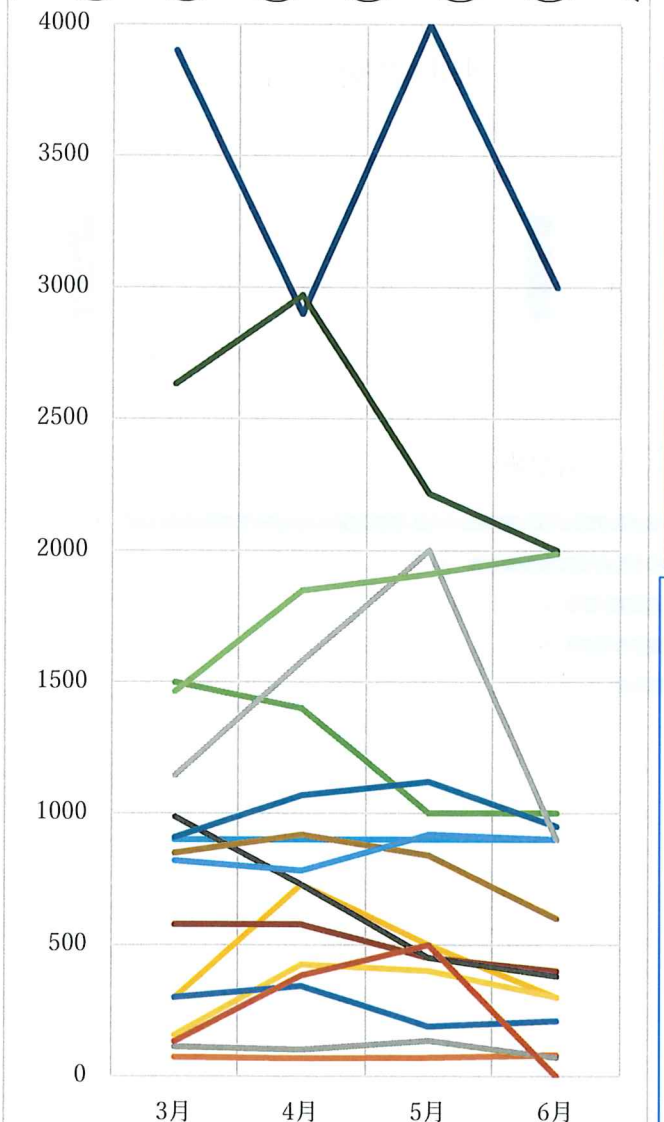
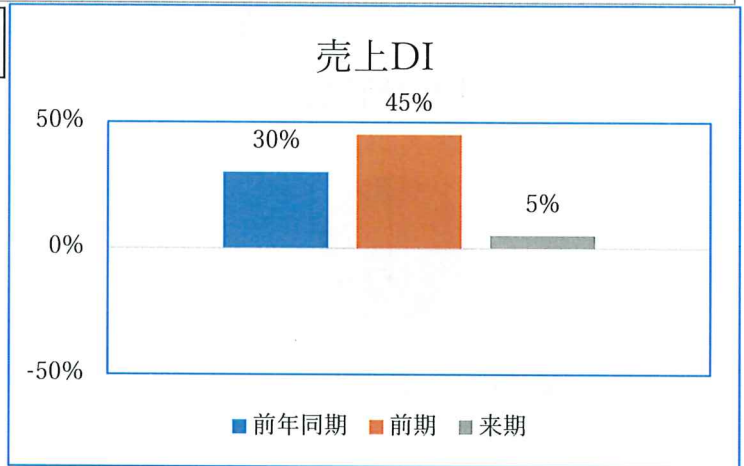
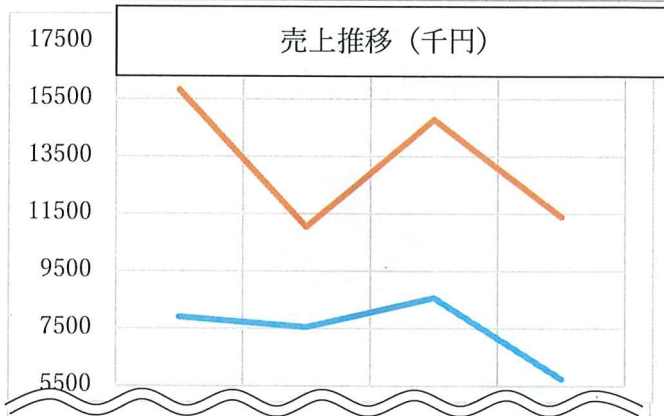


飲食宿泊業（2023年4月～6月）DI 値抜粋

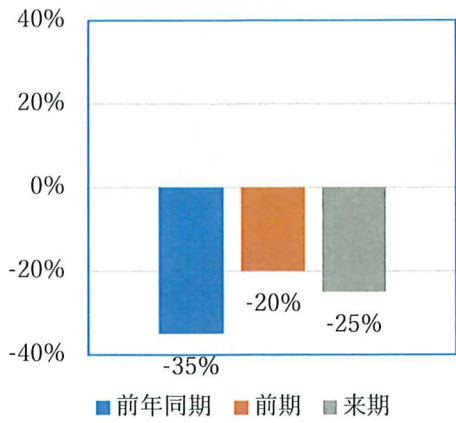
コメント

飲食宿泊業の業況に関するDIは、5類変更以降後の客足回復が見受けられる状況であるが原価高による収益と資金繰りの悪化は依然として懸念の残る状況である。売上DIは前年同期+30と昨年からの回復が見受けられ、前期+45と連休の時期で伸びている、来期は+5と一段落している。客単価DIは前年同期+15、前期+20、来期は+15と回復傾向が続いている。利用客数DI前年同期+▲30、前期+45、今後の見通しは+5と堅調な状況が見受けられる。資金繰りDIは前年同期▲35 前期▲20 来期▲25と資金繰り悪化が継続している。仕入単価の上昇が前年同期+75 来期見通しとも+80と原価上昇の状況が収益を圧迫しており、採算は前年同期▲25 来期見通し▲35と厳しい見通しである。設備投資は低調である。

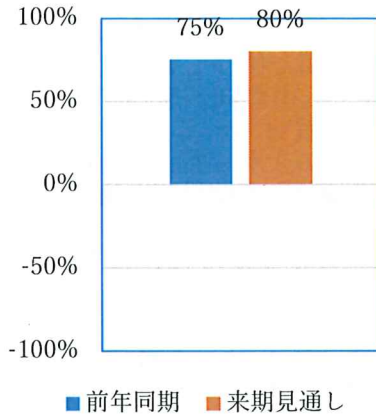
個別の声として、値上げにより売り上げが上がった、新しい顧客獲得で売り上げが伸びた、コロナも終息に向かいそれにともない人出の増加がみられる。といった明るい声がある一方で、材料仕入単価が上昇しているが、利用率の低下などを考えてしまうとランチ等の値上げがなかなかできない。マスクをしている人が多い中では宴会需要の回復は難しい、人材確保が困難なこと、又、原材料費の高騰は、収支に直結するため、先行きは明るいと感じられないという、厳しい声もあった。



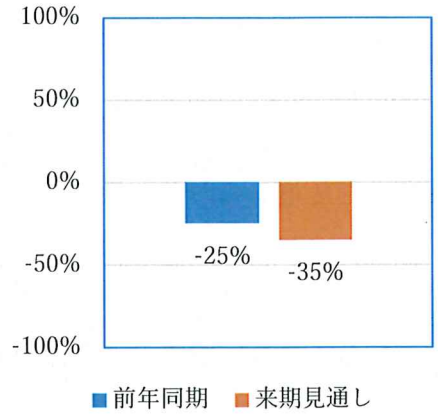
資金繰りDI



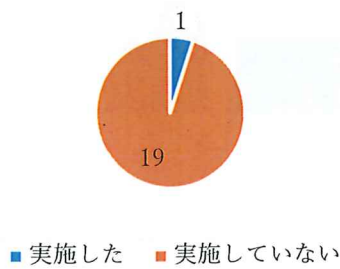
仕入単価DI



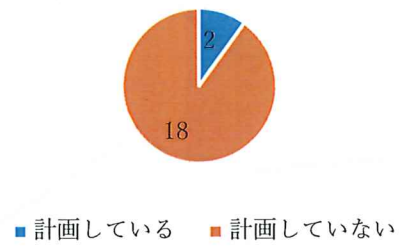
採算（経常利益）DI



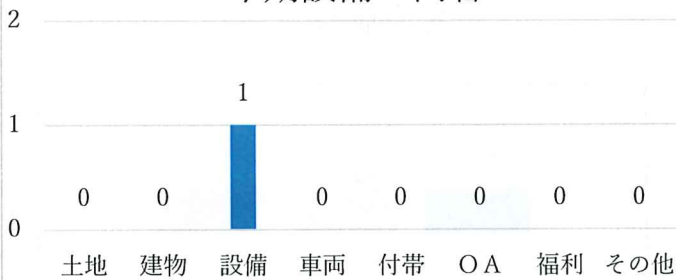
今期設備投資



来期設備投資



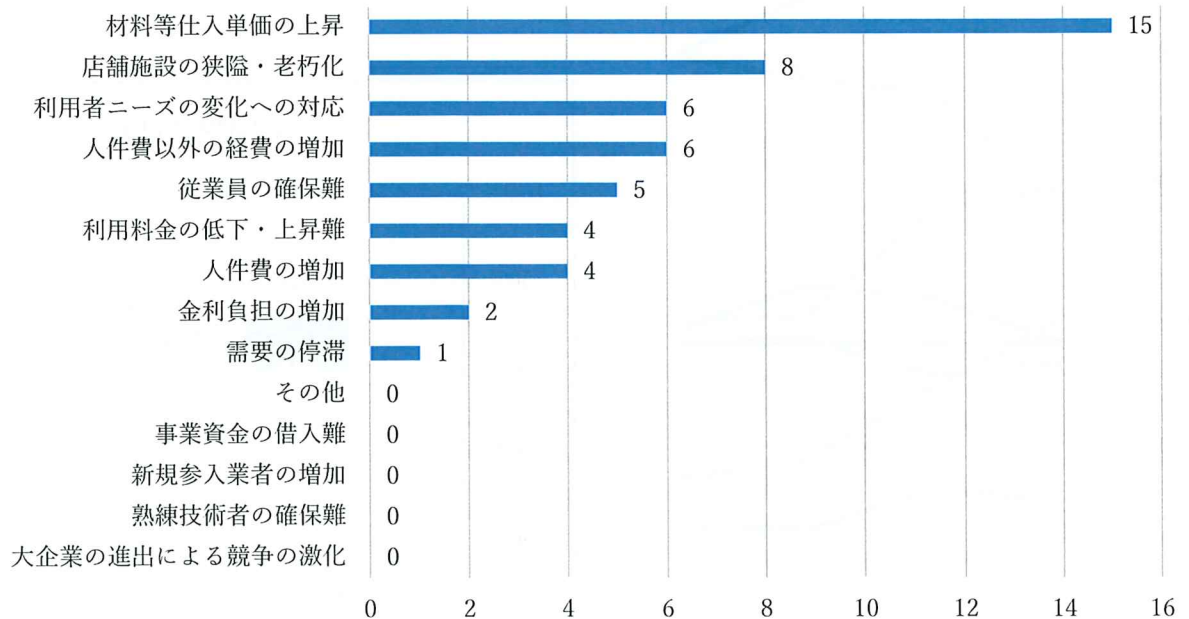
今期設備の内容



来期設備の内容



直面している経営上の課題

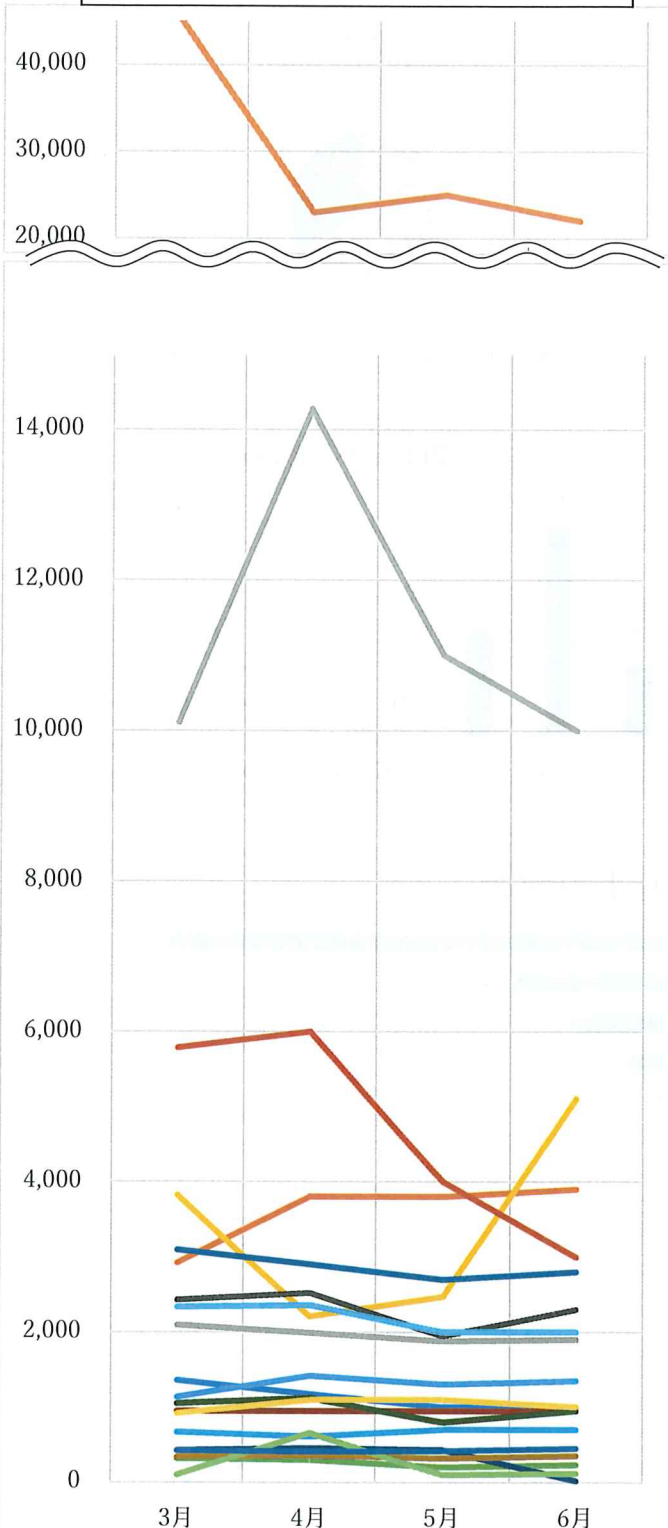


サービス業（2023年4月～6月）DI 値抜粋

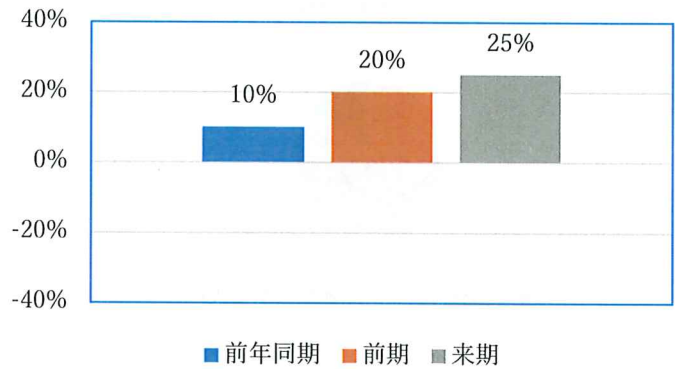
コメント

サービス業の業況は原価高により収益面、資金繰り面は厳しい環境が続くが、5類への変更により足元の客足が順調で売上の持ち直しの動きが顕著である。売上DIは前年同期+10、前期+20と来期見通し+25と足元で回復している。客単価DIは前年同期+45、前期+20、今後の見通しも+35と堅調な回復状況である。客数DIは前年同期▲5ながら前期+15、今後の見通しは+25と客足の戻りが見受けられる。資金繰りについて前年同期±0、前期+5来期は▲5と拮抗している。仕入単価DI前年同期+65来期見通し+45と原価上昇の傾向が続く。採算DIの前年同期▲25、来期見通し▲5となりコスト高が採算面に悪影響を与えている。他業種より設備投資を見込む企業も多い。個別の声としては、コロナも少しゆるやかになり、人の流動は昨年よりも増えていると思う。色々な物が上昇し必要経費が上がって来ている事が一番大変です。物価や光熱費が上昇するが、収入単価があがらない。といったコスト高を訴える声が多い。来院されている方の出足が鈍っている感じがしている。打開策としては、ペイペイ等による企画をして、景気刺激策が必要だと思うという声があった。

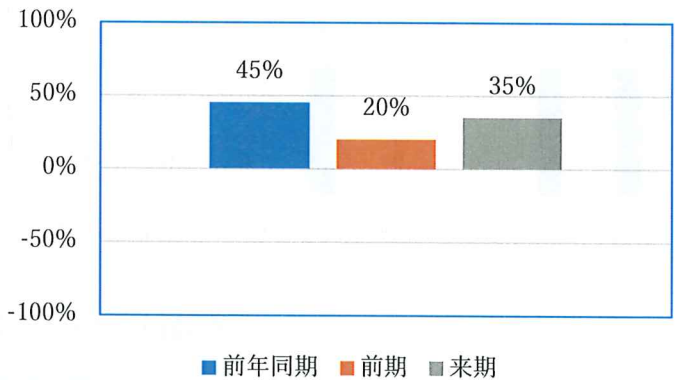
売上推移（千円）



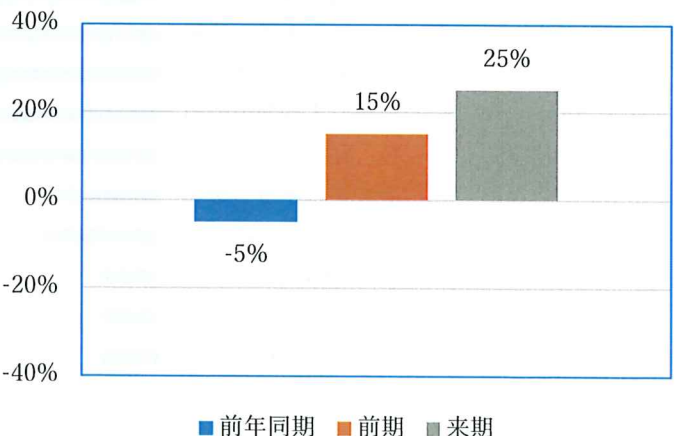
売上DI



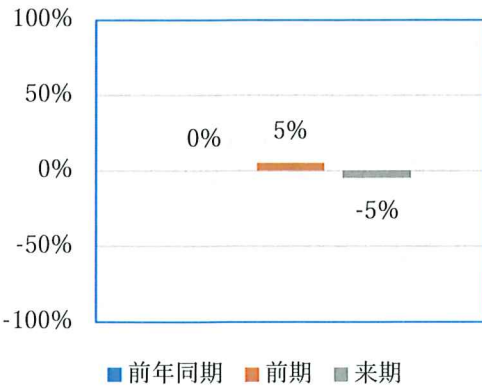
客単価DI



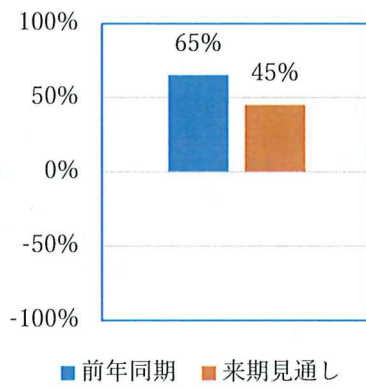
利用客数DI



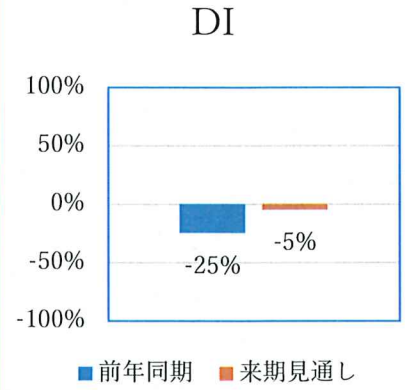
資金繰りDI



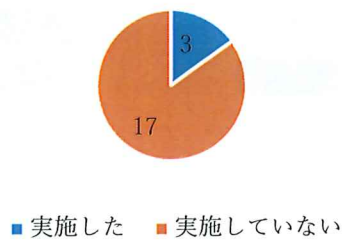
仕入単価DI



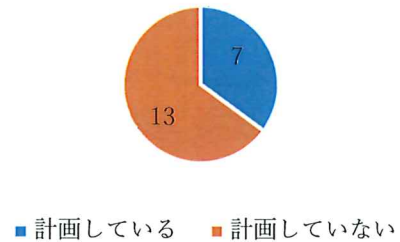
採算 (経常利益) DI



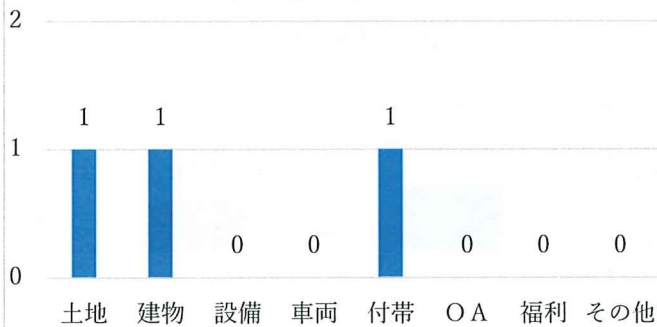
今期設備投資



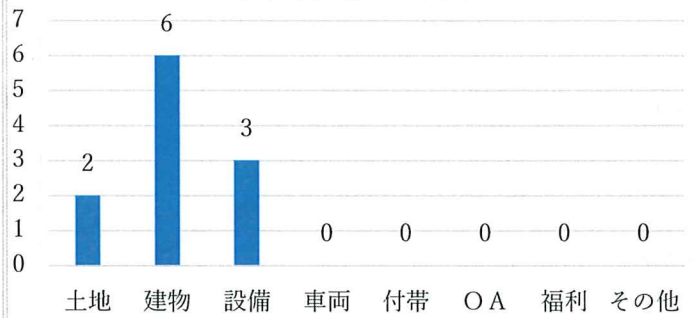
来期設備投資



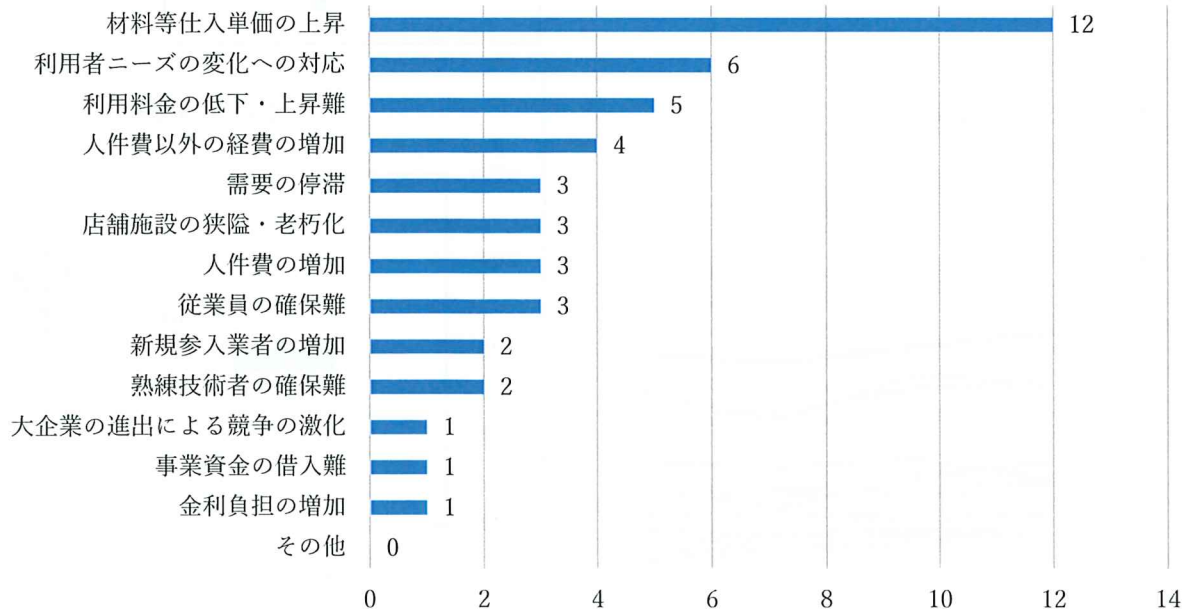
今期設備の内容



来期設備の内容



直面している経営上の課題



小規模企業景気動向調査 [2023年4月期調査]

～コロナ禍前の景況感に戻りつつあるも、コスト高と人手不足が深刻化する小規模企業景況～

<産業全体>

4月期の産業全体の業況は全DIが改善した。コロナウイルス感染症の5類入り報道を皮切りに、業種によってはコロナ禍前の景況感に戻りつつある。価格転嫁が進み売上が増加し始めた業種もある一方で、コスト高や人手不足の問題がより深刻化している業種もある。また、一部事業者では、客足が戻り始め盛況ではあるが、仕入れ先等が廃業し、代替え業者が見つからず頭を悩ませている、とのコメントも見られた。

DI	3月	4月	前月比
売上額	6.1	9.0	29
採算	▲41.0	▲36.2	4.8
資金繰り	▲32.7	▲28.3	4.4
業況	▲23.3	▲18.3	5.0

<製造業> 価格転嫁が進み始めるも、高騰の続くコストに苦しめられる製造業

製造業は、採算DIは大幅に改善、売上額・資金繰り・業況DIは小幅に改善した。コスト高は続いているものの、価格転嫁が進み、売上額DIはプラス水準を維持している。食料品関連は、連休での需要を見越した受注増加から、全DIが大幅に改善し、採算DIは2桁ポイントの改善となった。繊維関連は、資金繰りDIのみ小幅に改善し、その他DIは悪化した。機械・金属関連は、採算DIが大幅に改善した一方で、売上額・業況DIは小幅に悪化した。半導体不足が落ち着いてきたが、コスト高騰で苦しい状況が続いている、とのコメントがあった。

DI	3月	4月	前月比
売上額	10.4	12.6	22
採算	▲45.2	▲36.6	8.6
資金繰り	▲31.1	▲27.5	3.6
業況	▲24.3	▲21.8	2.5

<建設業> 仕入単価の上昇と外注費の増加により、工事原価が高止まりする建設業

建設業は、資金繰りDIが大幅に改善し、採算・業況DIも小幅に改善したが、売上額DIはわずかに悪化した。一部事業者では受注が安定しつつあるものの、コロナ禍のような受注減少を危惧し、採算が合わなくとも請け負ってしまう、とのコメントがあった。また、資材の高騰から仕入単価の上昇と、人手不足から受注の抑制や外注費の増加も起きており、工事原価が高止まりしている。業界において免税事業者が多く、インボイス発行事業者登録に伴う負担増を価格転嫁できない状態にある、とのコメントも見られた。

DI	3月	4月	前月比
売上額	6.4	5.0	▲1.4
採算	▲44.3	▲42.1	2.2
資金繰り	▲39.8	▲34.8	5.0
業況	▲25.0	▲21.0	4.0

<小売業> 物価高による消費の鈍化から、回復の機運に乗り切れない小売業

小売業は、全DIが小幅に改善した。コスト高騰から、一部業種では価格転嫁が進み、売上額DIはコロナ禍に比べると持ち直しているが、採算DIは低い水準で推移している。衣料品関連は、全DIが悪化し、特に採算・業況DIが大幅に悪化。物価高の中で、生活必需品に比べて優先順位が低く、消費需要が鈍化している。食料品関連は、全DIが大幅に改善し、売上額・採算DIともに2桁ポイント改善した。耐久消費財関連は、採算・資金繰り・業況DIが大幅に改善し、特に業況DIは2桁ポイントの改善となった。

DI	3月	4月	前月比
売上額	▲2.1	2.0	4.1
採算	▲46.5	▲42.6	3.9
資金繰り	▲37.5	▲34.3	3.2
業況	▲31.2	▲27.3	3.9

<サービス業> 活気を取り戻す中で、人員不足による機会ロスが起き始めたサービス業

サービス業は、全DIが改善し、売上額・資金繰り・業況DIは大幅に改善した。旅館関連は、全DIが改善し、売上額・業況DIは2桁ポイントの大幅な改善となったが、コロナ禍での人員整理の影響から、稼働率を上げられない状況に陥っている。クリーニング関連は、入学・進学や衣替えシーズンとなったことから、全DIが大幅に改善し、業況DIは2桁ポイント改善。理・美容関連は、外出機会の増加により、売上額・採算DIは小幅に改善し、資金繰り・業況DIは大幅に改善し持ち直しの動きが見られた。

DI	3月	4月	前月比
売上額	9.5	16.7	72
採算	▲28.0	▲23.5	4.5
資金繰り	▲22.1	▲16.5	5.6
業況	▲12.5	▲3.1	9.4

調査概要

・調査対象: 全国約300商工会の経営指導員

・調査時点: 2023年4月末

・調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

